

「箱根進路指導サミット 2016」（第6回）報告

神奈川県立秦野高等学校長 神戸秀巳

平成 23(2011)年 8月に箱根湯本温泉「ホテルおかだ」を会場にスタートした「箱根進路指導サミット」ですが、今年、青森県から島根県までの 19 都県 59 名の高校関係者等にご参加いただき、6 回目の「箱根進路指導サミット」を実施することができました。

今年も、連携している「高校教育フォーラム」[8月、京都]（総合プロデューサー：大堀精一様 [学研アソシエ、『学研進学情報』監修]、ファシリテーター：京都大学溝上慎一教授）及び「気仙沼進路指導サミット」[2月、主管：宮城県気仙沼高等学校]との開催時期のバランスを考え、10月実施への変更に踏み切りました。基調講演には毎回、教育未来研究会「そうぞう」代表の村上育朗様に講師をお願いしています。

「箱根進路指導サミット」の【実施の主なねらい】と【特色】は次のとおりです。

【実施の主なねらい】

- 1 進路指導（＝人間育成、≠受験指導）の充実
- 2 高い志をもった生徒の育成
- 3 全国の教員たちとの情報と情熱の共有
- 4 教員ネットワークの拡充
- 5 「学校力」の増強
- ＋ 地域貢献（地域の教育力向上、地域活性化の推進）

◆「箱根進路指導サミット」の特色

- 1 高校の参加者全員に発言の場があります
「年齢層別少人数グループでの討議」以外にも、発言する機会が全員にあります
- 2 特に若手教員に多く参加してほしいと思っています
全国からの参加者たちと積極的に「情熱」「情報」「志」を共有してください
- 3 幅広い地域から参加しています
これまでに参加された者は 24 都道府県に及びます
- 4 参加者同士の交流の場をたくさん設定しています
新採用から校長まで幅広い年齢層、職務の方が参加し、自由に交流できます
- 5 今後のネットワーク構築に役立ててください
メールを活用することで、参加者間からさらに交流を広げることができます

◆地域貢献（地域の教育力向上、地域活性化の推進）

地域内の「教育」「行政」「産業」の連携を強化することにより、地域の教育力向上と地域活性化の推進への大きな貢献が可能になります。その試みとして、第1回と第2回に、私の地元である神奈川県西部でお世話になっている方々にご協力をお願いし、登壇していただきました。

教育の現場にいる私たちが、これらの方々から直接話をお聞きする機会は非常に少ないため、多くの参加者から「見識を広めることができた」との声が寄せられました。

<行政を代表して>

- ・神奈川県小田原市 市長 加藤憲一 様 [第1回 (平成23年)]

『行政の長の立場から教育に期待すること』

- ・神奈川県箱根町 町長 山口昇士 様 [第2回 (平成24年)]

『箱根からの発信 ～高校教育への期待を込めて～』

<産業界を代表して>

- ・小田原箱根商工会議所 副会頭 (現会頭) 鈴木悌介 様 [第1回 (平成23年)]

『地域振興と社会活性化の観点から教育に期待すること』

- ・鈴廣かまぼこ株式会社 代表取締役社長 鈴木博晶 様 [第2回 (平成24年)]

『人材育成のために ～“現在”“未来”2つの視点～』



[講話] 秦野高等学校より (計4名登壇)



[講話] 福島県立福島高等学校



[講話] 青森県立三戸高等学校 鈴木崇様



[基調講演] 村上育朗様

【10月8日(土)】

◆12:00 受付開始

◆13:00 スタート

司会：神奈川県立秦野高等学校 教諭 美馬亮太郎

あいさつ： 神奈川県立秦野高等学校 校長 神戸秀巳

- ・「箱根進路指導サミット」の目的は、話を「聞く」ことではありません
- ・全国のネットワークを活用して、視野を広げ、視点を高めてください

諸連絡： 神奈川県立秦野高等学校 教頭 足立利恵

◆(60分) 講演 村上育朗 様 (教育未来研究会「そうぞう」代表)

テーマ 生徒を育てるために教員がすべきこと

タイトル 「自立した生徒が育つために心がけるべきこと」

◆(30分) 講話 青森県立三戸高等学校 教務部主任 鈴木崇 様

テーマ 組織的な授業改善に向けて

タイトル 「小規模校での取り組み」

◆(30分) 講話 埼玉県 私立武南高等学校 校長 田部井功 様

テーマ 教育力・組織力の向上のための実践

タイトル 「人と組織は動かない」

◆(30分) 講話 島根県立隠岐水産高等学校 教頭 江角和生 様

テーマ これまでの経験で得たこと

タイトル 「忘れずにいたい言葉」

◆(80分) 年齢層別少人数グループ討議 1グループ6～7名

「生徒に身に付けさせたい力、向上させたい力」

～ そのための授業(等)での実践、創意工夫について ～

◆全体会 グループごとに、4分以内で発表

【10月9日(日)】

司会 秦野高等学校 教諭 山本博之 (「気仙沼進路指導サミット」参加者)

◆(30分) 講話 神奈川県立秦野高等学校

「人を育て、社会を育て、[] を育てる学校をめざして」

・秦野高等学校の職員

・文武両道(本気で二兎を追う教育を追求する) 教諭 福重茜

・凡事徹底(あたりまえのことがあたりまえにできる人間を育成する)

教諭 山本博之

・地域貢献(地域の教育力向上と地域活性化の推進) 教諭 森有里恵

・「教師が変わると、生徒が変わり、学校が変わる」 校長 神戸秀巳

◆(30分) 講話 福島県立福島高等学校 進路指導部 阿部健太郎 様

福島県立福島高等学校 金澤秀樹 様

福島県立福島高等学校 学年副担任 小磯匡大 様

テーマ 本校の教育実践(東日本大震災を経験して)

タイトル 「震災・復興に対する多種多様な捉え方と人材育成の方向性について」

◆ (30分) 講話 元東北大学 特任教授 小粥幹夫 様 (現日本経済大学特任教授)
テーマ 国の教育行政の動向について
タイトル 「主体的・対話的で深い学び 自立する 68歳」

◆ (30分) 講話 静岡県立熱海高等学校 野田正人 様
テーマ ネットワークがもたらす教育の充実
タイトル 「枠組みからつくる教員ネットワークの効果と限界」

◆ (80分) パネルディスカッション
タイトル 『不易 (ふえき)』と『流行』を踏まえた教育実践について考える
パネリスト 秋田県立角館高等学校 教頭 小松弘樹 様
埼玉県 川口市立川口高等学校 教頭 市川啓二 様
神奈川県立厚木東高等学校 教頭 波呂房江 様
神奈川県立秦野高等学校 教頭 足立利恵
コーディネーター 岐阜県関市立関商工高等学校 副校長 服部弘幸 様

◆ (60分) ランチタイムミーティング

司会 岩崎進 様 神奈川県立藤沢西高等学校教頭 (元茅ヶ崎西浜高等学校教頭)

◆ (30分) 講話 宮城県気仙沼高等学校 進路指導部長 高木伸幸 様
テーマ つながりはエネルギー (全国ネットワークの活用)
タイトル 『気仙沼進路指導サミット』の意義と『箱根』との連携について

◆ (30分) 講話 山形県立米沢興譲館高等学校 進路指導主事 廣瀬辰平 様
テーマ 伝統ある進学校における教育の継承と新たな挑戦
タイトル 「目指す生徒像から考える教育改革」

◆ (30分) 講話 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 小野瀬勇一 様
テーマ 若手教員の挑戦
タイトル 『若手教員の挑戦』の先へ

◆ (60分) 講話・パネルディスカッションで登壇以外の高校関係者 各3分でスピーチ

◆ (20分) 「まとめとして」 岐阜県立山県高等学校 校長 翠雅司 様

◆お礼： 神奈川県立秦野高等学校 副校長 久保寺忠夫



発表資料

メッセージを発信し続けていますか？

神奈川県立秦野高等学校 校長 神戸秀巳

「ぶれない」「わかりやすい」メッセージを「繰り返し」発信する

- ◆「人を育て、社会を育て、未来を育てる学校をめざして」
- ◆「誰のために？」「何のために？」
- ◆「不易（ふえき）」と「流行」
- ◆教育活動の柱
 - 1 文武両道 本気で「二兎を追う」教育の追求
 - 2 凡事徹底 あたりまえのことがあたりまえにできる人間の育成
 - 3 地域貢献 地域との連携を強化した地域の教育力向上と地域活性化への貢献
- ◆学校経営の方針
 - キーワード 『前のめり』（ものごとへの積極的な取り組み）
 - 1 できることは何でもやる学校
 - 2 調子に乗っている学校
 - 3 動きの見える学校
- ◆チーム力向上のために
 - ・組織改善に向けて 「仕組み」「仕掛け」「しつけ」
 - ・学校運営の前進に向けて 「本気」「実践」「気づき」【前進のためのキーワード】
 - ・目標の達成に向けて 「高い視点」「広い視野」「深い洞察力」
- ◆校長としての信念
 - ・「相手視点」と「未来起点」 ×自分視点 ×現在起点
 - ・「感・即・動」 感じたらすぐに動く
 - ・「顧客満足度」の向上 顧客とは誰のことか？ 顧客は何を望んでいるのか？
- ◆私の想い
 - ・視野を広げると、面白い世界が見える。
 - ・やらされ感では、人は動かない。しかし、面白いと感じたとき、人は自ら動く。
 - ・できない理由を考えるより、できる方法を考える。

<p>【危機管理（安全と安心の確保）】危機発生時</p> <ul style="list-style-type: none">○最悪の事態はどうなることか？○2番目に最悪なのはどうなることか？○それらを防ぐためにいつ何をしたら良いか？

■教育者としてのプロ意識 ※県立学校初任者「地区研修」会での神戸講話資料より

◆授業について

生徒の表情は生き生きしているか？ 生徒の脳は動いているか？

生徒の思考は連続しているか？

◆生徒との距離について

教師と生徒は「お友だち」ではない 勘違いし、距離が近づき過ぎていないか？

◆社会人としての常識について

「教員の常識は世間の非常識」となっていないか？ 社会的に正しい行動か？

◆教育の役割について

「生徒は未来」である 人を育て、社会を育て、未来を育てる喜びを創り出す

提出されたレポートの一例

○ 生徒に身につけさせたい力・向上させたい力

学校内外に関わらず、最終的には自ら様々な課題解決のために動く人間になることを教育の理想と考えている。そのため向上させたい力は次の3つである。

- ①広い視野から物事を見る力
- ②Growth Mindset：柔軟な心の持ちよう
- ③プラスアルファの努力

○ そのための授業等での実践、創意工夫について

(1)【興味・関心として】身近な話題や歴史的な背景に教材を落とし込むこと

現在担当している教科「情報」は、「情報機器の技術取得のための実技教科」とも勘違いされている部分がある。しかし本来は「物事の見方・考え方を情動的な視点から学ぶ」教科であり、技術向上のための授業ではない(他の教科でも同様に言えるはずなのだが、大学がそれを考慮しているかどうかは甚だ疑問である)。そこであえて情報機器を使用せずに、身近な現象でも考え方は変わらないことや、歴史的には同様な問題解決の方法がとられているものがあるという内容で授業を行い、物事の根本を探る活動や深さを伝える指導を工夫している。

(2)【表現・技能として】THINK-PAIR-SHAREの順の浸透を基本とすること

～「アクティブラーニングの状態は何分でも良い」

「慣れるまではハードルの前に1段の階段をおく」

今までの成長段階から、多くの人の前でいきなり発表をさせるのは成功経験ではなく苦痛かあるいは困難な経験と覚えることが多いようだ。そこで、その払拭として、1人で考えたことを周囲の席の誰かと意見交換を行い、教員の側で必要に応じて誰かに全体へ発表してもらうというような授業を実践している。また、このような学習活動により「授業の目的、指導、評価」が一体化することがベストと考えている。

○ そのために、教師に求められる力とは

- ・品格の骨子＝信念に基づいた知行合一の精神
- ・発信力＝言語化の力
- ・忍耐力（急に生徒は育たないので…）
- ・包容力（学校自体が教員の失敗を許容できる「多様性の森」であること）
- ・自らが学ぶこと～プラスアルファの努力はまず自分から

○教員が受け身になることは、教育効果として生徒に受け身の姿勢を伝達することと同義である。自らの学び（教育に関わるものでなくても、ビジネススキルなども含めて）や全国の先生方の交流、講演などを学校内で共有する体制と共有できる雰囲気作りが必要。

講話：パワーポイント資料(一部)

次回「気仙沼進路指導サミット」 平成29年2月11日(土)～12日(日)実施

箱根サミット発表資料 H28.10.9

『気仙沼進路指導サミット』の意義と『箱根』との連携について

～ つながりはエネルギー(全国ネットワークの活用)～

宮城県気仙沼高等学校 進路指導部長 高木 伸幸

本日お話しすること

1. 県を超えたネットワーク作りの経緯
～全国ネットワーク作りの原点～
2. 気仙沼進路指導サミットの「ねらい」
～地方にもやれることは沢山ある～
3. 気仙沼進路指導サミットの「仕掛け」
～研修と交流～
4. 気仙沼進路指導サミットの「成果」
～箱根との連携を例に～

1. 県を超えたネットワーク作りの経緯

- 平成15年 学習指導要領改訂
各県レベルで情報交換の必要性の増大
- 平成19年 南三陸三校ネットワーク
村上育朗先生による県境を越えた全国的にも当時は希なネットワーク
- 平成20年2月 進路指導サミットin気仙沼
業者関係を含めた教育交流会議
- 平成23年8月 箱根進路指導サミット
神奈川県立茅ヶ崎高等学校が中心となる
- 平成23年11月 環日本海ネットワーク
山形県立酒田東高等学校が中心となる

2. 気仙沼進路指導サミットの「ねらい」

これらの教育に大切なことは何か

人的交流

東日本大震災を風化させない

ネットワークの力で学力向上・学校力向上

事務局の願い

周辺地域の地理的なハンディキャップをプラスに転換する。人を育て、人々のネットワークを作り、「恋」を開く人々の交流の輪を大きくしたい。

全国にはすばらしい学校、すばらしい先生が沢山いるので、それぞれの特色を取り入れ、自分の学校の強みに生かして欲しい。その一助としてこの進路指導サミットを是非、活用していただきたい。全国の先生方のノウハウを吸収して、日本の高校生を世界に輝ける人材に育て上げられればと願う。

将来的には、さらに大きな「全国のネットワーク代表者との交流が図れる会議」【例えば、京都フォーラムのような】を目指したい。

気仙沼サミット・箱根サミットの連携

お互いの会でPR

気仙沼で出会い、生徒交流へ

気仙沼サミット

箱根サミット

来年から箱根は出展扱い

京都フォーラムなどでの出会い

いただいた「感想」より

- ◆箱根サミット、大変素晴らしい勉強の場、出会いの場として満喫させていただきました。今回初めて同行した二人も、あの会の熱気に当てられ、ものすごく楽しく有意義であったと述べておりました。私自身、発言の機会を与えていただき、とても良い勉強の場となりました。自分なりに持っている他の人にないモノをお持ちしたつもりです。
- ◆箱根サミットに参加させていただき、他校の実践や先生方のお話を伺い、自分自身大きな刺激を受け、改めて「よし、やってやろう」という気持ちになりました。
- ◆つながりはエネルギー、私もそのように思います。誰かに知ってもらっている、気にかけてもらっているというだけでも動き出す力になります。地味な人間で、生い茂る葉のようなネットワークはなかなか作れないかもしれませんが、しっかりとした支えになるような根のようなネットワークづくりを目指していきたいと思います。
- ◆今年初めてフル参戦させていただき、ワクワク感をそっくりそのまま頂戴して、先ほど帰って参りました。キーワードがいくつも頭の中を駆け巡り、どこで発散していこうか手ぐすねして待っている感じです。相変わらず先生のお元気に、気持ち良い心地良さを感じながらの2日間でした。当然来年も参戦させていただきます。それまでに新たな取り組みを行うとともに、仲間を巻き込むよう努力します。
- ◆二次会でお話しさせていただき、日々のことを深く考えさせられました。また、教育の可能性を強く確信した会でもありました。今までになかった様々な出会いがあり、全国の先生方の熱い思いがあり、とても刺激をもらいました。秦野高校の先生方も、非常に元気で前向きで、学校が動いていることを肌で感じる事ができました。
- ◆初めての参加でしたが、熱い思いをお持ちの多くの先生方にお目にかかることができ、教育欲あふれるエネルギーを頂戴することができました。今回のサミットで吸収できましたことを、今後の指導に必ずや活かしていきたいと考えております。秦野高等学校のますますの発展を願いつつ、私どもの高校も秦野高等学校に劣らぬ教育を目標に邁進する決意を申し上げ、感謝のご挨拶といたします。
- ◆進路から離れ、SSH担当となり進路の情報がなかなか入りにくくなった中、徐々に大いに刺激を受けました。また、全国の方々と交友を深め、まだまだ頑張らねばと良い機会となりました。
- ◆箱根サミットは有意義にそして楽しく、更に多くの熱意ある先生方と懇談することができました。神戸先生はじめ秦野高校の先生方のご配慮に感謝しています。今年も内容豊かで充実した研修会でした。必ず参加した先生方が発言する機会を持つとの方針は大変良いものと思っています。箱根サミットの運営方針として長く維持していただきたいと思います。思いを伝えるのは言葉の力です。
- ◆初めての参加でしたが、おかげさまで様々な刺激を受けることができました。我々の仕事は「人相手の仕事」なので、「正解」がありません。私は常に「本当にそれでいいのか」と揺れ続けています。今回参加させていただき、様々な先生との交流の中で、「揺れ続けていいんだ」と確信しました。先生方から間接的に「それでいいんだよ」とエールを送られた気がします。心のリハビリができました。
- ◆先生のお話からまずはやってみようと踏み出す勇気と熱さが大切なのだと感じました。

やはり、人を動かし、状況を動かすにはパワーが必要に感じます。そんなパワーを今回つなげていただいた人の輪で育てていきたいと思えます。

◆初めて参加させていただきましたが、とても充実した内容であつという間に1日半が過ぎてしまいました。志の高い参加者の皆様のおかげで、大きな刺激を受けて帰ることができました。行って良かったと思う反面、箱根サミットの存在を以前から知っていたので、もっと早くから行けば良かったとも思いました。多くの参加者の方との出会いや熱い思いに触れることで、私自身が改めて凡時徹底の大切さを再認識できたことは今回の収穫の一つです。

◆大盛況・大成功に終わったのは秦野高校の先生方のチームワークによるものでした。運営する側の目線としてもとても勉強になりました。昨年から参加させていただいておりますが、毎年感じるのは幹事校の行き届いた配慮です。

◆私自身本当に多くのものを得ることができました。学校運営のヒントや、生徒・職員とのかかわり方はもちろんですが、一番の収穫は私自身のコミュニケーション能力、自己開示のあり方について、改めて考えるきっかけをいただいたことだと思っています。

◆あのような研修会での初めての発表で緊張しましたが、のびのびと楽しくやらせていただくことにしました。とても良い体験になりました。箱根のすばらしい旅館と温泉とを楽しみながら、全国数多くの人たちと触れ合えるのは、格別です。

◆今年の1年生は今までにないほど大変な生徒が多数入ってきました。この「手詰まり感」を何とかできないかと思い、今回参加しました。「決定打」のようなものは得られませんでした、「与えすぎ」の弊害と「待つ」ことの大切さを認識しました。何とかしなければといろいろとイベントをやりすぎて、生徒も教員も「考える」(あるいは検証する)ことをしなくなっているのではないか。また、結果を求めるあまり、待てなくなっているのではないかということです。やはり、「取捨選択」をしなければ、生徒も教員も疲弊するだけで成果が上がらないことになりかねません。

◆年々充実した会になっているような気がします。ここ数年、いろいろな会ではワークショップばやりのために、ワークショップ疲れになってしまいます。しかし、箱根サミットは人の言葉で議論できるというのがいいですね。どんな手法であっても、やはり人と話すということはとても大事です。

◆赴任してからの2年間は、カルチャーショックを含め、いろいろなことがありすぎて、こここのころ心のエネルギーが0に近い状態でした。「授業って何だろう？教育って何だろう？共育のつもりでやってきたけど、違うのかな・・・何が違うのかな、ここは高校じゃないのかな・・・」など迷っていましたが、目の前に光が見えてきました。このような機会を下さって、本当にありがとうございました。今後も全国の先生方のパワー・経験・知恵をお借りしながら、子どもたちと未来を作っていこうと思えます。

秦野高等学校が主催する「箱根進路指導サミット」の様子を知っていただきたいと思い、PTA運営委員会でお知らせしたところ、PTA会長と広報委員会(2名)にご参加いただきました。使用した写真は広報委員会に提供いただきました。感謝いたします。